



説教要旨 「物語りの続きへ」

マルコによる福音書16章1～8節

マルコによる福音書はもともと16章8節までで完結していると考えられています。墓にはイエス様の遺体はなく空っぽで、そこにいた若者が「あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる」(7節)と告げ、それを聞いた女性たちは誰にも何も言わなかった。というところで終わるマルコによる福音書に込められたメッセージ。それは、「ガリラヤに行きなさい。そうすればイエス様に会えるよ」ということではないでしょうか。

ガリラヤは、イエス様が生まれ、育ち、最初に人びとを教え始めた所です。そして、最初にイエス様の弟子になったのも、ガリラヤ湖で仕事をする漁師たちでした。同じユダヤ人でも、エルサレムの人々から見ると、ガリラヤ人は汚れの多い、見下げるべき人間とされていました。そのガリラヤに生きる、汚れた民と呼ばれて蔑まれ、貧しく、あるいは病に悩む人たち。そのガリラヤの人々と共に、イエス様は生きられました。その厳しい現実生きる人々の中にこそイエス様がいるのだと、この福音書は私たちにそう伝えようとしているのではないのでしょうか。イエス様の思いは、今もガリラヤの人々の間に生きている。だから、あなたもガリラヤに行けば、そこでイエス様に会えるのだ、と。

イエス様の生きた時代からおよそ2000年経った現在、私たちにとって大切なのは、『私たちのガリラヤ』に行き、そこでイエス様と共に生きるということです。イエス様は人が生きている現場に、今も生きて働いておられるのです。イエス様と共に歩み、イエス様の働きに自らも参与してゆく。今ここにイエス様が働いておられると実感すること。それが復活の本質ではないかと思うのです。

マルコによる福音書が、このように尻切れトンボのような終わり方をしているのは、イエス様の物語はまだ終わっていないからです。この物語の続きは私たち自身が、ガリラヤに行って、そこで今も生きて働いておられるイエス様と出会うことで、体験していくことなのだ、という力強いメッセージが込められているのです。